

人 ● 百年を生きる

吉井 伊ネさん
百歳 黒鳥四

生きる、百年間。とてつもなく長いような気がするし、あつという一瞬のようなものかもしれない。全国には百歳以上の「一世紀老」が一千八百五十一人いる。その一人が黒鳥の吉井伊ネさんである。吉井さんの生年月日は明治十八年（一八八五年）十月五日。まもなく百一歳だ。

明治十八年はどういう年だったのだろうか。調べてみると、内閣制度が発足している。総理大臣は伊藤博文である。以来現在の中曾根内閣まで七十余りの内閣が数えられる。

吉井さんはまだまだ達者だ。最近、耳が遠くなり、インタビュアーはできなかつたが、訪問したとき三つ指をつけてあいさつされ、「この人らねえ」と家人に尋ねられた。吉井さん宅は五大家族。伊ネさんの娘婿の由蔵さん（六〇）、孫の甚一さん（五七）とその嫁のハルエさん（五八）、そしてひ孫の吉一さん（三〇）である。ご家族の話から伊ネさんはこんな人と想像できる。

その一、二年前までは元氣いっぱいのおばあちゃん。去年の六月



に腰が悪くなり一時的に寝たきりになったが、今は身の回りの世話はおとんど自分でできる。湯治好きでおとんどまでは歩いて緒立温泉に行っていたほど元氣。甚一

「嫁にきて暇があつたらヤマ（田んぼ）へ行けと口ぐせのように言われましてね」とハルエさん。「若いときは仕事一筋の人だったので。つい先日、枝豆もぎを手伝おうとしたぐらいいすから」。

その三、とても頑固者のおばあちゃん。由蔵さんは「八十のオレからみても古風というか昔かたぎというか、まあ頑固な人です。オレが婿にきたけど、あわなくて飛び出したこともあつた。甚一は「オレは血がつながつてくけど、じいちゃん（由蔵さん）とかあちゃん（ハルエさん）は難儀したみてらね。まあ、うちの大将だ」。

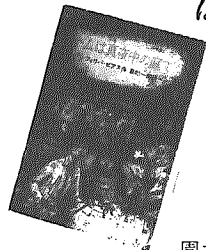
長生きの秘けつは…家人によれば、「結立の湯治、よく食ベるがと（今も一日三食）、頑固で思うようにしてきたから生活。腰が

悪くなったため外はあまり出なかつたが、まだまだ元氣だ。帰るとき、あと十年は生きると、と由蔵さんは話す。きたりますよ」と大声で言つたら、コクンと首をかたむけた。

今月号の特集「がんばれ！黒鳥高校」は石橋校長先生が八月の末、編集室を訪れたことに始まる。が、それだけでは、黒鳥高校は町に一つしかない高校だ。巷の評判はあまりよくない。黒鳥のイメージは町に直接結びついてしまっている。黒鳥市の中のことは、黒鳥町に越してこられるかたは都落ちなのか。市外、すなわち黒鳥町は恥ずかしい町なのだろうか。黒鳥と同じころ他田町に開校した高校のように新潟向陽高校と名付けた方がよかつたのか。そんなはずはないと思いたい。黒鳥の生徒の皆さんは卒業後、出身校を聞かれることもあるだろう。十九、二十のころは恥ずかしいかもしれない。でも、十年、二十年たてば、どこの高校かなどこれも聞かれないだろう。あるいは、東京へ出れば黒鳥もN高もないのである。新潟県の高校でしかないのだ。通学の際の自由な歩き方のように、青春を自由にやっしてほしい。

ほんの一冊

トムは真夜中の庭で
(岩波書店)
フリリッパ・ピアス
(高杉一郎訳)

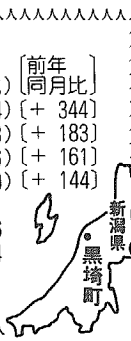


トムは真夜中の庭園で、過去の少女ハ

ティと過去の時を過ごします。不幸な境遇にありながら、生き生きとしています。木遊園に登り、鳥と戯れ、二人はさしまがハを必要としてしまうのです。

時間の迷解きひとつの楽しみですが、何よりも庭園の自然描写が魅力的です。感傷に流されず、淡々とした中にしっとりとされた情感が伝わってきます。疎外された現代のハティたちがどうしようか。それが庭は果たしてあるのしょうか。それがテレビの中でないことを望みたいもので

(紹介者：中山佳奈恵)



〈人の動き〉		〔前年同月比〕	
8月末日現在	22,361	(+84)	344
人	10,990	(+48)	183
男	11,371	(+36)	161
女	5,831	(+19)	144
世帯	8,311	(+19)	144
8月末日	166		
出生	26		
婚姻	3		
死亡	14		
転入	166		
転出	94		

今月号の表紙

山際良子さん(いて座・O型)は高校時代卓球部「クワイ」な。でも、顧問の渡辺弘先生は愚痴。長谷川さん(し座・A型)は「黒高は思い、今が頑張りどころ」。笠原さん(おうし座・B型)は「生物部で佐渡へ合宿に。ウニの人工授精が記憶に残っている」。後藤さん(おうし座・A型)は「学校がすぐ近くなので、思い出しというより今も高校生のよう」。山際多美さん(ふたご座・A型)は「あつという間の三年間。年をとりたくない」。

来月号の表紙

健康を取り上げます。あなたの健康法から町の健康事業、国民健康保険税などについてどう見守るお寄せください。先号でも予告した「青少年の非行問題」にもご意見を、どうぞお気軽に連絡ください。

昭和三十一年十月日発行(毎月日発行)

三三三発行/黒鳥町役場 千三三三 新潟県西蒲原郡黒鳥町大野三三三

電話/三三三三三三 編集/企画開発課担当/広編社計係 印刷/三三三三三三株式会社 経費/部三三三

